



ニュース 10号

Information, Communications, and Attention-Related Empowerment Center for the Challenged
in Hokkaido 障害者のための情報と通信と人々の理解に関するエンパワーメントセンター北海道

新年あけましておめでとうございます。昨年1月に活動を開始し、5月にNPO法人を取得しました。今年は基礎固めの年として、活動していきたいと思っています。引き続きよろしくお願い致します。

小さな勉強会 開催

秋山記念生命科学振興財団助成事業

12月14日にレッツチャットの開発者である松尾さんをお呼びして「小さな勉強会」を開催。少人数でしたが、指サックを使った手作りまばたきスイッチなど、きらっと光るためになる情報が満載。

会場は二度目となる狸小路4丁目の「プロミス」の会議室をお借りしました。プロジェクターなど必要な機材がコンパクトに設置されていて、小さな勉強会にはぴったりの場所です。社会貢献の一環として無償で貸していただいています。



活動報告会のご案内

WAM 助成事業

2月1日(金)午後6時30分～北海道難病センター(中央区南4西10)において活動報告会～活動を振り返り、そして未来へつなぐ～を行います。

「コミュニケーション機器の給付制度と人的支援～現状と課題～」と題して、東京大学先端科学研究所学際バリアフリー領域 人間支援工学分野 私学研究員である井村保先生においでいただくことになりました。意思伝支援に関する全国の状況をお聞きすることで、私たちの活動を振り返り、さらに北海道の支援者の皆さんの力になってほしいと願っています。

また、脊髄性筋萎縮症のさやかちゃん(11歳)の母としての立場から杉原真己さんから、さやかちゃんが生まれてから11年の軌跡と意思伝達装置を使用するようになってからの成長についてお話しいただきます。

定員は80名です。参加を希望される方は、FAX、E-mailなどでお申し込みください。

(申し込み先はニュースの最後にあるFAX番号、アドレスです)

帯広訪問

以前から相談があつてなかなか行けなかった帯広地区。今年度はいただいた助成金のお陰で念願だった帯広にもボランティア研修会で1回、帯広保健所から依頼があつて10月から11月にかけて3回（のべ4日間）、毎回3名ほどの患者さんのご自宅や病院を訪問しました。帯広保健所は保健師さん、作業療法士さんの連携が素晴らしく訪問と訪問の間にも小まめにカンファレンスを行い、患者さんやご家族との信頼関係を築いていました。



地域の病院やケアマネージャさんからも強い熱意を感じます。11月の訪問では視線入力マイトビーのサポートをしているクレストさんも同行していただき意思伝達支援研修会を実施、27日18時から帯広保健所で参加者20名。翌日は朝から帯広で一番大きな病院でも体験会を行うなど、充実した訪問となりました。

今後の予定

☆2月23日（土）小さな勉強会 15時半～17時30分 iCare ほっかいどうの事務所で行います。講師は神 貴博さん（中村記念病院臨床工学科係長）臨床工学という新しい分野で仕事をする皆さんは、意思伝機器を必要とする人たちにとっては心強い味方です。自作ナースコールのノウハウ、オリジナルスイッチなどスイッチ作成や加工技術のすべてを見せていただきます。実技もあります。定員8名

☆3月9日（土）地方研修会 i n 旭川（予定） 13時半～15時半 会場未定

★iCare ほっかいどうの facebook もよろしく。 <http://www.facebook.com/iCarehokkaido>

特定非営利活動法人 iCare ほっかいどう

〒060-0061 札幌市中央区南1条西8丁目 SITY ビル 6F

T)011-222-4462 F)011-596-8794 jimu@icare-h.org <http://icare-h.org/>